



平成 29 年度

6 年次研修講座(特別支援学校) 第 6 日

●平成 30 年 1 月 12 日 (金)

特別支援学校には、障害種も生活経験も様々な個性豊かな子供たちが通っています。小中学校での学びを経験した上で、特別支援学校に来る子供もたくさんいます。そのため、特別支援学校の教員は、小中学校でどのような学びが行われているかも知り、“小中学校と特別支援学校の学びの連続性”を意識した教育実践を展開する必要があります。

午前には、筑波大学の米田宏樹先生から「連続性のある多様な学びの場としての特別支援学校」というテーマでお話をいただきました。教育的ニーズに応じて学びの場を選択するインクルーシブ教育システムを真に実現するために、特別支援学校の教員が知っておくべきことや意識しなければならないことについて、具体的に分かりやすくお話しいただきました。

午後は、交流及び共同学習をテーマに、2人の先生から実践発表をいただいた後、「特別支援学校の子供たちにとって学びのある交流及び共同学習にするために具体的にどんな工夫ができるか」について、研究協議を行いました。各校の実情についての情報交換も行いながら、活発な協議が行われました。

7 日間の 6 年次研修は、次回 (1/30) の課題レポートの発表が最終日となります。